

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2016年度 助成者)

作成日 2016年8月29日

氏名	坂下 勝哉
研修先機関名	<u>Hawaii Tokai International College</u>
研修期間	2016年8月15日(月)～20日(土)
大学名 学年	名古屋大学 6年

私は今回、日米医学医療交流財団から助成金をいただきハワイでの医学部夏期集中医学英語研修に参加しました。簡単ではありますが、ここにその内容について報告させていただきます。

<参加目的>

私が今回の研修に応募したのには2つの目的がありました。1つめは英会話能力を高めるためです。6年生の春に大学のプログラムを利用し **New Orleans** での臨床医学実習を経験しました。そこでは非常に充実した日々を過ごし英語能力の向上を感じることができましたが、所詮は2か月間の実習であり不自由なく英語を使うには不十分で、帰国後も英語を学び続けなくてはならないと感じていました。この研修では問診やプレゼンだけでなく医療倫理についてもディスカッションするというので、英語を使う良い練習になるだろうと考えました。2つめは、人との出会いです。このセミナーの参加者はきっとよく勉強していて高い志を持っているのだろう、そういう学生の能力や考え方から学べるものは多いだろうと期待し応募しました。

<研修内容について>

Medical English の授業では人前でプレゼンする練習ができ、夕方の **Workshop** では現地学生が患者役ということでリアルな問診ができましたし、先生方からのフィードバックでプレゼンをブラッシュアップすることができました。しかし、最も良かったと思うのは、**Medical ethics** の授業です。大学の实習では医療倫理について考える機会は少なく膨大な知識を頭に叩き込むことに集中してしまいがちですし、卒業後は目の前の業務に忙殺されてそれどころではないのではないかと思います。「目の前のこの患者を本当に治療すべきか？」と自問自答できる機会は貴重で、医師がただの治療マシンではなく患者にとって最良の治療を選択すべき人間であることを再認識しました。しかも各テーマについて英語でディスカッションし、意見をまとめてプレゼンするというのは私にとって骨の折れる作業でしたが、なんとか自分の意見を伝えるという練習になり、また論理的なプレゼンテーションの練習をするという課題も見つけることができました。

<人との出会いについて>

この研修では全国の留学を考えている医学生だけでなく、ハワイの医学生や海外で働く医師達とも話をするチャンスがありました。皆それぞれに志や将来の目標があり、話をするのがとても刺激的でした。将来の目標やキャリアプラン、お互いのバックグラウンド、海外で働くということ、英語の勉強の仕方、医師は教育者であるべきだということ、そして時には学生同士くだらない冗談を言い合ったり・・・ここには書ききれないほど多くのことを話し、多くのアイデアをもらいました。机に向かって国家試験の問題集を解くよりもよっぽど有意義な時間であったと信じています。

<おわりに>

このような貴重な機会を与えてくださった日米医学医療交流財団スタッフの方々、HTICの方々、ハワイで働く先生方、ハワイ大学の学生、そしてこのプログラムで切磋琢磨した同志たちに感謝し、この経験を医師として患者や後輩に還元していきたいと思ひます。